



企業訪問レポート

「あしもと」から感動と喜びを発信していく

有限会社シューズ・ミニッシュ 大阪市生野区

有限会社シューズ・ミニッシュは、サンダルを中心とした履物の製造販売メーカーである。大阪市生野区で起業し、サンダル・靴を作る過程で多種多様な工程を地元企業に外注し「協力企業」を作っていくことで、地域全体の活性化に大きく寄与している。

“下駄をもう一度”という発想から、下駄の機能性、ファッション性を高め生まれたシューズ「リゲッタ」や、カヌーの形がイメージの履物である「リゲッタカヌー」というヒット商品を生み出し、地元大阪を代表するブランドとして世界へ積極的に進出していこうとしている。

会社概要



会社名：有限会社シューズ・ミニッシュ
所在地：大阪市生野区巽西1-9-24
電話：06-6755-2430
FAX：06-6752-9788
創業：1968（昭和43）年3月
設立：2006（平成18）年3月
代表者：代表取締役 高本泰朗
資本金：3,000千円
従業員：約120名（内正社員60名）
（※リゲッタカヌーを含む）
事業内容：シューズ・サンダル製造、販売
URL：<http://www.mini-shu.com/>

サンダル製造で地域が活性化

同社は、現社長の高本泰朗氏の実父である高本成雄氏が、大阪市生野区で昭和43年に「タカモトゴム工業所」として、サンダル製造業を開始したことが前身である。

当時、生野区はサンダル製造の町としてそれぞれの事業者ごとに作業分担が決まっており、町全体が活性化していた。

その後、中国等海外から安価なサンダルが日本に輸入されるようになり、生野区内の多くの業者が淘汰され廃業に追い込まれることとなった。

そのような厳しい状況のもと、平成18年に高本泰朗氏が事業を引き継ぎ、有限会社シューズ・ミニッシュに社名変更、社長に就任した。これを機に、高本社長が得意とするサンダル・靴のデザインに本格的に取り組むようになると、徐々に注文が増え、生野区内で事業を継続する業者に作業分担ごとに外注をかけた結果、再び同社の協力工場として仕事が行きわたるようになり、地域活性化に貢献することとなった。

そうして、高本社長の「靴職人」としての独特の感性のもと、受託製造だけでなく自社ブランド商品を作りたいとの思いから生まれたのが「リゲッタ」や「リゲッタカヌー」といったヒット商品である。

「リゲッタ」と「リゲッタカヌー」

同社は、日本を代表する履物である「下駄」の良さを取り入れ、感性あふれるデザインに機能性を加味した履きやすい靴の製造をはじめた。こうして生まれたのが「リゲッタ」ブランドである。

下駄は本来、「指先に少し力を入れるだけで前に進むことができ、つまづきにくい」といった機



本社社屋

本社倉庫

能的な履物であるが、ファッション性が低く消費者に忌避されがちだったため、現代風にアレンジし機能性とファッション性を兼ね備えた商品を作り上げた。大手通販会社カタログ誌に掲載されると口コミで話題となり、愛用者、リピーターが増えていった。さらに、TVショッピングで取り上げられ、7分間で9,000足を販売するという快挙をなしとげるなど、大ヒット商品となった。

『リゲッタ』は“下駄をもう一度”に由来するネーミングのとおり、下駄という日本古来の履物を見直した新しい靴である。足の悩みを抱える女性たち、普段は無理をしてお洒落な靴を履いている女性たちの休憩場所でありたい」、高本社長のそんな思いが詰まった履き心地を追求したブランドである。



「リゲッタ」パンプス

そして次に作られたのが「リゲッタカヌー」である。

「リゲッタカヌー」はカヌーの形がイメージの履物。硬いアスファルトの道を足早に行き交う現代人のために、歩きやすさをとことん追求して生まれたのが、その個性的な丸いアウトツールである。「まちあるき」を楽しむ専用ツールとして、フロントのボリューム感にはじまり、指先から踵まで足裏全体を大きく包み込む。これも大ヒットし、大阪府から「2015年度大阪製ブランド」(*)として認証される。社長をはじめとして地元生野の職人、業者の「生野から世界で通用するブランドを生み出したい」という強い思いが成果としてあらわれたといえる。

(*) 大阪製ブランド

大阪府が大阪府内の中小企業の優れた技術に裏打ちされた創造力あふれる製品を認証し、大阪のものづくりのブランドイメージを高めるとともに、府内ものづくり企業の自社製品開発を促進する支援事業。認証製品は、大阪府をはじめ、様々な支援機関が実施するプロモーション活動により全国に情報発信される。



「リゲッタカヌー」ビッグフットサンダル (大阪製ブランド認証品)

社員の自主性を重視する

「私の仕事は、社員が自分自身で考え学びやすい環境を作ること。自主性を大事にし失敗を重ねて成長してほしい。みんなで悩んで、みんなで考えて、みんなで答えを出そうとする社風を作っていくことが仕事であり、周りからは『働いて楽しそうな会社』とよく言われる」と語る高本社長。同業他社からの転職者が現社員の約7割を占めていることから、人を惹きつける魅力ある会社と言える。

「社員の考えを重視するために対話を常に心掛けています。社員との面談では各々が『自分の3年後を想像し明確な目標を立てて成長してもらう』ことで、全体のレベルがあがり、職場も自然と明るく活気あるものとなる」と社長は考える。

今後は、「大阪、生野を代表する企業として世界に進出していきたい。世界中で我々の作った商品を履いてもらうことが目標」と語る社長。日本古来の履物である“下駄”の特性を生かしつつ、社員や地元の協力企業とともに、より「機能性」と「ファッション性」を持ったサンダルや靴を追求することで、大阪から世界に感動と喜びを発信していくことであろう。(中井正人、島田清彦)